

学部で目指す姿、大切にしたいこと

小学部 算数科

【主な実態】

- ・実態別にグループ編成をしているが、グループ内での実態差が大きい。
- ・自分なりに見通しのもてた活動、経験を積み重ねて自信がある活動には取り組める。
- ・操作性のある学習に好んで取り組む児童が多い。
- ・一つの事物に対する興味、集中が続かない。

【主体的に学ぶ姿】

- ・見通しをもって、自分から取り組む姿
- ・自分から教材に手を伸ばす姿
- ・課題を自分で選んで取り組む姿・興味のある活動が広がっていく姿

【学びを実感する姿】

- ・学習活動や教材を使う中で、「できた」と言ったり、自分の得意なものを選んだり、「できたこと・分かったこと」を自分なりの言葉や身振り、取り組み方で表す姿
- ・学習を積み重ねる中で、できるようになった姿
- ・身に付けた見方・考え方を、自信をもって他の活動、次の活動に生かす姿

【大切にしたいこと】

- 楽しく学べる教材、場面設定
- 数学的なものの見方・考え方に基づく学習
- 「大きい」「長い」など算数的な概念に関する言葉掛け
- めあてと振り返りの工夫
 - ・子どもにとって、やることや答えが分かるめあて
- 評価
 - ・即時評価
 - ・できたこと、以前からの変化の可視化
 - ・写真や動画などを用いた学習の記録
- 算数科の学びの、別の学習への取り入れ

中学部 国語科

【主な実態】

- ・教師や友達との関わりを好んでいる。
- ・身振りや言葉で、自分なりにコミュニケーションをとる。
- ・学習場面で、自分の意見を伝えるようになってきた。
- ・相手の話を聞く姿勢ができておらず、内容を聞き取る力や、相手に伝わるように話す力(語彙、言葉遣い、順序)が不足している。
- ・相手の気持ちや意見を受け入れられないことがある。

【主体的に学ぶ姿】

- ・手本を見て、「自分から」考える、伝える、調べる、取り組もうとする姿
- ・問い掛けに対して反応する姿
- ・前向きに取り組む姿
- ・やることが分かり、「やってみたい」「楽しい」「誰かと一緒にやってみよう」という姿

【学びを実感する姿】

- ・何が分かった(できた)かが分かっている姿
- ・分かったこと、できたことを他者に説明する姿(「〇〇ができた」「あ、あのことか」と気付く)

【大切にしたいこと】

- 「伝え合う力」を育む
 - ・語彙力
 - ・適切な言葉遣い
 - ・話を聞く態度
 - ・聞き取る力
 - ・相手に話す態度
 - ・伝わる話し方
- (学習指導要領の内容だと)
- 段階 【知・技】ア(イ)(カ)
- 【思・判・表】A ア、ウ、オ B イ

高等部 国語科

【主な実態】

- ・友達や教師と話し言葉に関わり、場面に応じた敬語を適切に使うことができないときがある。
- ・思いはあるが、表現方法に課題あり。
発表△、ICT◎

【主体的に学ぶ姿】

- ・積極的に発表する姿
- ・正確に伝えるために、話す要素を考え、整理してから話す姿
- ・筋道を立てて考える姿
- ・相手の意見を聞く、認める、受け止める姿

【学びを実感する姿】

- ・相手の気持ち、状況を考えて話し掛ける姿
- ・振り返りでどのような言葉が適しているか考え、記入する姿
- ・自分で書きたい文字、思いをもつ姿
- ・頭の中で組み立てて詳しく話す、整理して聞く姿
- ・心地よい関わり、円滑なコミュニケーションをとる姿
- ・共通した身振りを増やして、表現する姿

【大切にしたいこと】

- 生徒が伝え合うために
 - ・聞く姿勢
 - ・反応する
 - ・相手がどのように受け取ったか、への意識

令和6年度 単元題材構想シート 算数科 小学部 3・5・6年／1グループ

【実態】

- ・数の大小や多少は、10までであれば全員ほぼ理解できている。大きい数字になると理解が難しい児童がいる。
- ・量の長さ、重さなどの概念の理解は曖昧で、長さの比較では、差が大きい場合「一番長いもの」を正しく答えられるが、差が小さいものや「一番短いもの」は答えることは難しい。
- ・ゲームの中で、数を数えたり、大きさ、多少の比較をしたりすることに興味がある。

【学習指導要領における
目標・内容】

目標

2段階 C 測定 アイウ

3段階 C 測定 アイウ

内容

2段階 C 測定 ア (ア) 知・技㊦㊧㊨

(イ) 思・判・表㊦

3段階 C 測定 ア (ア) 知・技㊦

【単元題材名】算数ダンジョン②～長さくらべをしよう～

【単元題材の目標】

- ・長さを比べる方法を知り、2つの物の長さを正しく比べることができる。(知・技)
- ・2つの物の長さを比較し、「長い」「短い」「同じ」を判断し、言葉で伝える。(思判表)
- ・ミッションをクリアするために、みんなで長さを比べようとする。(学、人)

指導計画

期間	主な目標	主な内容	関連する学習
4 ～ 7月	・1～10までの数を正しく合成する。 (知・技) ・具体物や数量の有無を判断し、ないときには0と言葉や数字で表現する。(思判表) ・ゲームの得点を自分から比べようとする。 (学、人)	さんすうダンジョン① ～合わせていくつ？～	・生活単元学習 ・日常生活の指導 ・体育 ・特別活動
8 ～ 11月	・長さを比べる方法を知り、2つの物の長さを正しく比べることができる。(知・技) ・2つの物の長さを比較し、「長い」「短い」「同じ」を判断し、言葉で伝える。 (思判表) ・ミッションをクリアするために、みんなで長さを比べようとする。(学、人)	さんすうダンジョン② ～長さをくらべよう～	・生活単元学習 ・日常生活の指導 ・体育 ・特別活動
12月 ～2月	・重さを比べる方法を知り、2つの物の重さを正しく比べることができる。(知・技) ・2つの物の重さを比較し、「重い」「軽い」「同じ」を判断し、言葉で伝える。 (思判表) ・ミッションをクリアするために、みんなで重さを比べようとする。(学、人)	さんすうダンジョン③ ～重さくらべ～	・生活単元学習 ・日常生活の指導 ・体育 ・特別活動

この単元題材において目指す
児童生徒の主体的な姿、学びを実感する具体的な姿

【主体的な姿】

- ・見通しをもって答えがでるまで、自分から何度も学習活動や教材に取り組もうとする姿

【学びを実感する姿】

- ・身に付けた数学的な見方・考え方を、教材の操作で表したり、言葉で表現したりする姿
- ・身に付けた数学的な見方・考え方を、別の学習や人とのやりとりの中で生かす姿

—主体的な学び、学びの実感につなげるために—

単元題材（扱う題材、構成等）

【主体的な学びのために】

- ・児童が楽しんで取り組めるように、キャラクターになってダンジョンを進め、クリアすれば武器やアイテムを獲得できるなど、ゲーム仕立ての学習を設定する。

【学びの実感のために】

- ・長さの用語や概念の確認から、直接比較、間接比較と系統的に学ぶことができるように小単元を構成する。
- ・長さを正確に比べられる教具を作成し、教具を扱う中で長さを正確に比べるために必要な数学的な見方・考え方を、視覚化・言語化しながら確認していくことができるようにする。
- ・算数で身に付けた見方・考え方を他の場面でも発揮できるように、日常生活でどちらが長いかわい掛けたり、行事などで長さを比較するゲームを設定したりする。

導入・展開・まとめ場面の在り方

【主体的な学びのために】

- ・導入では、気付いてほしいポイント（数学的な見方・考え方）を教師からは伝えない。
- ・展開で児童が教具を扱う中で、数学的な見方・考え方を働かせられるように気付きを促す。

【学びの実感のために】

- ・まとめの場面で、めあてを達成できたことを写真や動画で確認しながら、学習した見方・考え方を視覚化・言語化し、学びを積み重ねていくことができるようにする。

働き掛け、発問の工夫等

【主体的な学びのために】

- ・T2がミッションを与えたり、ミッションクリアかどうか判定したりする役をする。

【学びの実感のために】

- ・児童がどんな数学的な見方・考え方を働かせたか確認できるように、正しい比べ方については「どうやって比べましたか?」、長短の判断については「どうして長いと分かりましたか?」のような発問をする。

令和6年度 中学部 Aグループ 国語科

主体的に学ぶ姿

- ・ 自分から質問をしに来る
- ・ アイディアが生徒から出る
- ・ 声色、表情が明るく、肯定的な発言が多い
「やってみたい」「やりたい!」「やってみよう」

学びを実感している姿

- ・ 何がわかったか、何の学習をしたのか が分かっている
→ 「できた」だけでなく「難しかった」「～がわからなかった」と自分で表現する姿も大事
- ・ 自然とアウトプットしている（誰かに自分から教えるなど）

令和6年度 単元題材構想シート

国語科 中学部 Aグループ

【実態】

- ・人との会話ができ、興味のあることは教師に自分から話す。
- ・理由を説明することが苦手 「どうして?」と聞かれるとうまく答えられないことがある
- ・相手に伝える態度に課題がある 声が大きすぎる、小さすぎることもある 早口になることも

【学習指導要領における
目標・内容】

知技 ア(オ)イ(ア)

思判表Aイ ウ エ

Bア イ ウ

指導計画

【単元題材名】 伝え方マスターになろう!
～相手に理由を伝えるためには?～

【単元題材の目標】

- ・理由を表す言葉の働きや文の構成について知る。(知・技)
- ・自分の考えの理由となるものが分かり、理由を表す言葉を用いて文をつくる。(思判表)
- ・声の大きさや話す速さ、発表態度に気を付けて相手に伝える。(学、人)

この単元題材において目指す
児童生徒の主体的な姿、学びを実感する具体的な姿

主体的な姿:やりたい!やってみたい!発表したい!
そのためにこの学習がどこに生きるのか分かるようにする
実感する姿:何がわかったか表現する
自分の発表が相手に伝わった!

【本時の目標】

- ・ウェビング図から理由となるものを選択し、「なぜなら～からです」や「理由は～からです」などの理由を表す言葉を用いて文をつくる。

—主体的な学び、学びの実感につなげるために—

単元題材(扱う題材、構成等)

- 星本「自分の夢を話そう」
- ・「なぜなら～からです」の学習
- ・話し方、聞き方のポイント で参考にする
- ★全文だと文が長く、情報量が多いので2文のみ扱う

導入・展開・まとめ場面の在り方

- ・めあて:「理由はどのように書いたらよいか!？」疑問形に
- ・まとめ:「理由は『なぜなら～からです』を使うとよい」などめあての答えを確認
- ・ふりかえり:「わかった」か「難しかった」か選択し、「何が」の欄に、「何がわかったのか」「何が難しかったのか」を記述→学びの実感につなげる
- ・展開では個別、ペア学習に まとめでは全員で

働き掛け、発問の工夫等

- ・行事の思い出を振り返ることができるよう写真を提示
- ・思考の広がりを見える化できるようウェビング図を活用
- ・文の組み立てや、ペアでの伝え合いが活発になるよう、T2を配置
- ・「どうして理由が相手に伝わったか」生徒がつくった文を用いて生徒が分かるように評価
- ・振り返りで「何が分かったか」「何が難しかったか」振り返ることができるよう、教師と生徒で対話

主な目標	主な内容	関連する学習
・「なぜなら～からです」などの理由を表す言葉を知る。(知・技) ・ウェビング図から理由となるものを見つけ、「なぜなら～からです」といった文に当てはめる。(思判表)	○理由の伝え方を知ろう! ・「なぜなら～からです」などの理由を表す言葉に理由となるものを当てはめて文をつくる。	知技ア(オ) イ(ア)
・理由を表す言葉と自分の理由となるものを組み立て、文を書く。(知・技)(思判表)	○理由を伝えよう!①～文を組み立てよう～ ・理由を表す言葉と自分の理由となるものを組み立て、文を書く。	思判表Aイウ Bアイ
・理由を表す言葉を用いて文を書く。(思判表)	○理由を伝えよう!②～文を書こう～ ・理由を表す言葉を用いて文を書く。 ・書いた文をペアで伝え合う。	思判表Aイウ Bアイ
・理由を表す言葉を用いて文を考える。(思判表) ・声の大きさや話す速さ、伝える時の態度に気を付けて相手に伝える。(学、人)	○理由を伝えよう!③～考えて話そう～ ・題材に沿って理由を考え、ペアで伝え合う。 ・全体で発表する。	思判表Aイウエ Bアイ
・自分の考えとその理由を思い浮かべ、理由を表す言葉を用いて文を構成する。(思判表) ・声の大きさや話す速さを意識し、立ち方や顔の向きなどに気を付けて発表する。(学、人)	○理由を発表し合おう!～発表ゲーム～ ・ルーレットで題材を選び、自分の考えと理由を話し合う。	思判表Aイウエ

令和6年度 高等部 Aグループ 国語科

主体的に学ぶ姿

- ・自分の考えを進んで書こうとする。
- ・友達と自分の考えを比べ、認め合ったり、よい表現や言葉を取り入れようとしたりし、自分の表現を見直して考える。

学びを実感している姿

- ・長く書くことがよいのではなく、技法を押さえて表現する。
- ・物語や話の内容の起承転結を意識して考える。詳しく書こうとする。
- ・相手を嫌な気持ちにさせない文章表現で書こうとしたり、話して伝えたりしようとする。

令和6年度 単元題材構想シート 国語科 高等部 A グループ

【実態】

- ・状況を詳しく、順を追って伝えることに苦手さがあるが、自分の気持ちや考えを話することができる。
- ・語彙力や表現力の低さから、自分の気持ちを的確な言葉で伝えることに自信がない。

【学習指導要領における
目標・内容】

中学部2段階
知技 ア、イ

中学部2段階
思判表 A イ、ウ、エ B

【単元題材名】 豊かな表現で伝えよう
～続・文章で伝えよう～

【単元題材の目標】

- ・伝わりやすい言葉を選んだり、詳しく伝えるための言葉を
考えて使ったりする。(知・技)
- ・相手や目的に合わせて伝えたい内容を明確にし、文章の
構成を考えて書く。(思判表)
- ・相手への伝えやすさを意識し、伝えたい内容を言葉や文章
で表したり、自分の言葉で話したりして伝える。(学、人)

指導計画

主な目標	主な内容	学習指導要領の項目
・多面的に情報を読み取る。(知・技) ・物事の前後関係を考える。(知・技) ・読み取った情報を相手に伝える。(思判表)	○写真から読み取るう 写真に写る人物やその周囲の状況を読み 取り、人物が言いそうなせりふを入れる。	2【知・技】ア(ア)(イ)(カ) 1【思・判・表】A
・言葉の意味や様々な表現方法を知る。(知・技) ・修飾語を使ったり、他の言葉に言い換えて伝えたり する。(知・技)(思判表)	○言葉を飾ろう 「明るい」「かわいい」などの単語がより 引き立つように修飾したり、別の表現に 言い換えたりする。	2【知・技】ア(ア)(エ)(オ) (カ) 1【思・判・表】A
・伝わりやすい言葉を選んで使ったり、言葉の表現を 工夫したりする。(知・技) ・相手への伝わりやすさを意識し、伝えたい部分をよ り詳しく表現する。(思判表) ・伝えたいことを明確にし、相手にイメージが伝わる ような言葉を選んだり、文章を工夫したりする。 (学、人)	○文章で伝えよう 短い例文を基にして、より詳しく伝えたい 部分に着目し、相手にイメージが伝わる ような文章表現に書き換える。	1【知・技】 ア(ア)(エ)(オ)、イ(ア) 1【思・判・表】 A イ、ウ、エ B ア、イ、ウ、エ、オ 2【知・技】ア(カ)
・相手や目的に合わせて伝えたい内容を明確にし、文 章の構成を考えて書く。(知・技) ・相手への伝わりやすさを意識し、自分の言葉で話し たり文章にしたりして伝える。(思判表)(学、人) ・物事の前後関係を考え、起承転結を意識して文章を 読んだり書いたりする。(知・技)	○続・文章で伝えよう 作業学習製品などの身近なものの良さを よりよく相手に伝えるための文章表現を 考える。	1【知・技】 ア(ア)(イ)(エ)、イ(ア) 1【思・判・表】 A イ、ウ、エ B ア、イ、ウ、エ、オ 2【知・技】ア(カ)
・伝える相手や伝えたい内容を明確にして適切な話し 方をする。(知・技)(思判表) ・伝えたい内容がより伝わるように、言葉を選んで話 したり、話し方を工夫したりする。(学、人)	○読んで伝えよう 前時までに書き溜めた文章を実際に読んで 伝える。 伝えたい内容がよりよく伝わるための話し 方の工夫や言葉選びをする。	2【知・技】ア(ア)(イ)(カ) 1【思・判・表】A 1【思・判・表】 A イ、ウ、エ

この単元題材において目指す

主体的な姿： 児童生徒の主体的な姿、学びを実感する具体的な姿
する。

実感する姿：絆ショップなど PR 場面で、お客様を相手に、作業学習製品の売り
やおすすめポイントを分かりやすく説明をする姿

【本時の目標】

- ・伝えたい内容を明確にし、伝わりやすい言葉を選んだり、詳しく伝えるための
言葉を考えて使ったりする。
- ・伝えるべき内容と伝える相手を意識して文章を書く。

—主体的な学び、学びの実感につなげるために—

単元題材(扱う題材、構成等)

- ・日常生活の中で、生徒が共通認識できている言葉を題材にする。
- ・名詞や動詞を詳しく説明する修飾語の学習をする。

導入・展開・まとめ場面の在り方

- ・導入では、前回の授業の振り返りをモニターに映し出したり、プリントを
見たりする時間を設定する。
- ・めあて：疑問形で提示する。お題と学習課題も提示する。
- ・展開では一人で考える、友達と共有する、再考する学習を設定する。
- ・まとめの前に本時のまとめに関するポイントをおさえる。
- ・まとめ：生徒の書いた文章を提示し、ポイントに沿ったところに線を引く。
- ・振り返り：まとめのポイントを基に、自分の文章を自己評価する。

働き掛け、発問の工夫等

- ・生徒の良い意見や気付きを取り上げ、全員で共有できるように紹介す
る。
- ・生徒が自分の考えを自信をもって表現できるように、肯定的な言葉掛け
をする。
- ・生徒の考えを引き出すような言葉掛けや発問、例示などをしたり、選択肢
を提示したりする。